

第4回総合教育会議

日時 平成28年1月14日（木）午後2時00分～

場所 松戸市役所 教育委員会5階会議室

松戸市総合教育会議 出席者名簿

氏名	備考
本郷谷 健次	市長
伊藤 純一	教育長
山田 達郎	教育長職務代理者
松田 素行	教育委員
市場 卓	教育委員
武田 司	教育委員
伊藤 誠	教育委員

陪席者

氏名	備考
高橋 正剛	総合政策部長
山口 明	学校教育部長
宮間 秀二	生涯学習部 教育企画課長
白井 宏之	総合政策部 政策推進課長

出席者

氏名	備考
堀内 文江	政策推進課
靱井 俊二	政策推進課
内海 彩	政策推進課
加藤 将秀	教育企画課
大西 真	教育企画課

○白井政策推進課長 本日は、御多忙の中、平成27年度第4回松戸市総合教育会議に御参集いただきまして、ありがとうございます。

開会前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

次第がございまして、その次に、資料1「松戸市教育大綱」(案)、資料1-①「第3回総合教育会議委員意見一覧」、以上となりますが、過不足等ございますでしょうか。

本日の会議は、この後に教育委員会会議の開催を予定しておりますので、15時30分までの90分を予定しております。よろしくお願い申し上げます。

それでは、ここから本郷谷市長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 まず、傍聴人について御報告いたします。

本日の会議に4人の方から傍聴したい旨の申し出があります。松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、これをお認めいたしたいと思っております。

また、会議開会以降、傍聴希望者があれば、随時入室を許可いたしますので、併せて御了承をお願いいたします。

それでは、傍聴人を入場させてください。

[傍聴人入場]

○本郷谷市長 それでは、これから平成27年度第4回の松戸市総合教育会議を開催いたします。

第4回目の会議の議事録署名人につきましては、伊藤教育長、伊藤委員の2名にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元にお配りさせていただいております次第に従って議事を進めます。

それでは、議題に移ります。

議題1『「松戸市教育大綱」(案)について』を議題といたします。

これまでの第2回・第3回の会議において、たくさんの意見をいただきました。ありがとうございました。また、年末には書面による意見書もいただいたということで、大変忙しい中、本当にありがとうございました。

これらの意見を踏まえながら、今回案をつくらせていただきました。皆さんの真摯な議論のおかげで、このような案ができてきたと思っております。きょうは基本的には最後の意見交換の場というふうに考えております。それでは、変更点につきまして、事務局のほうで説明をお願いします。

○白井政策推進課長 今回の大綱策定に当たりましては、さまざまな観点から真摯に御協議いただき、ありがとうございます。事務局といたしましても大変感謝しております。

それでは、政策推進課のほうから「松戸市教育大綱」(案)につきまして、第3回からの変更点を中心に御説明申し上げます。

資料1「松戸市教育大綱(案)」に沿って御説明させていただきたいと思っております。

前回の第3回総合教育会議で提示した案をベースにいたしまして、委員の皆様からいた

いただいた意見等を整理し、再度見直しを図ったものでございます。修正箇所の赤文字は、新規追加の表記、また、緑色の文字は、もともとありました表記の位置を変更したことを示しております。

なお、委員の皆様からいただいた意見につきましては、資料1-①に整理をさせていただいております。

続きまして、修正後の内容について御説明いたします。

まず、1ページ、「はじめに」をご覧ください。

こちらは市長からのメッセージとして、大綱策定の意図などを明記しております。こちらはこの会議で初めて御提示をさせていただいております。

2ページ及び3ページにつきまして、「背景と趣旨」「位置付け」「対象期間」は、変更はございません。

続いて、4ページの「基本理念」についてでございます。

この後説明させていただきます四つの柱の「まち松戸」という表現を見直ししましたことに併せまして、基本理念に続く文章の最終行にございました「「自立したまち“松戸”の力を醸成します。」という文言を「みんなで、松戸の未来を創ります。」というような表記に変更させていただいております。

そのほかにも、文章を最終的に推敲させていただいて、数か所の表記の修正をいたしております。

また、その下の図につきましても、四つの柱の変更に伴いまして、円の中の表記等も変更させていただいております。

次に、5ページ、「基本理念を支える4つの柱」でございます。

まず、4つの柱共通のことについてでございます。前回の会議において、「まち松戸」と結ぶのは気になる。「まち松戸」という結びは、市民にこういう意図だときちんと伝われば納得できる。ビジュアル的に市民に浸透していくものとして「まち松戸」というサブタイトルも悪くないのではないかなどの御意見をいただきました。全体的に修正したほうがよいというような御意見を多くいただきましたこともありまして、再度考え方を整理いたしました。

まず、柱のタイトルからも、この大綱が環境整備の目指す方向や範囲を示すものであることがわかるように、何々するようという目的を明示した上で、何々の環境をつくります、あるいは整えますという表現にそろえるようにいたしました。

また、サブタイトルは、端的な目標となるような表現に見直しをいたしました。具体的な修正ポイントは、それぞれの柱の中の説明でまたさせていただきます。

まず、柱の1についてでございます。

いただいた御意見といたしましては、子どもたちの育成の目指す方向について、追加をしてもよいと思うし、大綱に厚みが出る。

学校教育はさまざまなニーズが生まれ、いろいろな考え方が必要となっているので、現

行の1・2くらいのまとめ方がよいのではないか。

環境を整えるから自由にやってくださいという自立ではなく、こういった力を育みますといった積極的、前向きな表現にした方がよい。

こういう子どもたちの育成を目指すということを高らかに宣言する部分があっていい。太字と説明文が一致しないとか、重複する部分がある。

「生きる力」の解説があるが、道徳的な部分と体づくりの部分、もう1項目立ててもよいのではないか。

1から4が均等のウエートとなっているので、1のウエートを大きくして、学校教育にもう少し力が入ってもよいのではないか。

グローバル化は既に進んでいるので、これからということではない。

外部リソース（大学・私立高校・都内の教育関連施設等）の活用を教育と関連づけてまとめしていくことが必要、などがございました。

検討の結果、柱の「それぞれの能力や個性に合った環境で学べるようにします」を「それぞれの能力や個性を伸ばせるように、教育環境をつくります」とし、続くサブタイトルでは、「学びのまち 松戸」を「力を育みます」として、「松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性を伸ばせるように、教育環境をつくります。可能性にチャレンジする力を育みます」といたしました。

次に続く文章の中で、「生きる力」を米印として説明文をつけておりましたが、こちらを本文中に移動いたしまして、「確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力（生きる力）」とすることで、育成の目指す方向が本文を読んだだけで明確になるようにいたしました。そして、社会的な自立、他者との協働、創造性、個性を伸ばすなど、本市として重点的な育成の方向性を列挙し、その結果として、グローバルに活躍する人材像となるよう文言を整理いたしました。

また、学校教育における安全性の確保へのニーズの高まりを踏まえ、これからもさらに子どもたちの安全・安心な学習環境の整備に取り組む姿勢の表記を最終行に新たに加えました。

次に柱の2についてでございます。

いただいた御意見といたしましては、「選ばれるように」という言葉はそぐわない。「選ばれるように」は、松戸が選ばれる非常に理想的な姿だと思う。

教育課題を市民みんながかかわって成長を支えていくんだという視点をもっと盛り込んでいくべき。

幼児より乳児のときから地域等とのかかわりを考えることが大切。

「地域社会の一員として様々な教育を受け、」ではなく、「受けることができる健全な成長をめざします」という形のほうが自然ではないか。

「市民みんなで子どもの成長を支える地域との連携を深め、子どもたちが地域社会とともに育つ体制をつくります」、サブタイトルとして、「松戸で子どもを教育したいと選ばれ

ることを目指します」という形でもよいのではないかなどがございました。

検討の結果、市民みんなにかかわることを冒頭に持つてくることで強調させていただき、「選ばれる」という目標はサブタイトルのほうに移しまして、「子どもたちが地域社会の中で育つように、市民みんなで子どもの成長を支える地域の環境をつくりますー松戸で子どもを教育したいと選ばれるようにしますー」といたしました。

これに続く文章については、推敲いたしまして、前半を家庭教育、後半を幼児教育として整理し、修正させていただいております。

次に、柱の3についてでございます。

いただいた御意見といたしましては、「高齢」という言葉はそぐわない。

「地域コミュニティの形成を目指します」という言葉はそぐわない。

学術振興として、大学との連携や博物館あるいは図書館等との関連というものを位置づけてもよいのでは。

障害者などに対する文言があってもいい。3から4へ、「子どものときからふるさと意識を醸成し」を移す。

「高齢になってもいつまでも元気で」の「いつまでも」は、高齢といつまでもが同じ意味なので不要ではないか。

サブタイトルは、「いつまでも共に暮らし続けられる環境を推進します」がよいのではないか。「目指す」より「推進します」「やります」という表現としてはどうかなどがございました。

検討の結果、「元気で暮らせる」から「元気で学び続けられる」に修正し、サブタイトルでは、「高齢者」に「障害のある人」という言葉を加え、「市民みんなが、いつまでも元気で学び続けられるように、学習活動や運動ができる環境をつくります。ー高齢者も障害のある人も生きがいを持ち続けられるようにしますー」としました。

また、続く文章では、大学連携や社会教育施設の充実を明記し、「そのために、市内大学等との連携や社会教育施設の充実を図るなど環境整備を行います」という文章を新たに加えました。

なお、ふるさと意識は、柱の4に移動いたしました。

また、地域コミュニティの部分は表現を整理いたしまして、「また、市民が、地域の課題を自らの力で解決していけるように、身に付けた知識や経験を活かしていける環境を整えます」といたしました。

最後に、柱の4についてでございます。

いただいた御意見といたしましては、「人を生む」というのは無理で、行政はその環境を整えることだと思う。

「愛着を持つ人が更に増えるように」は、数値的な表現より「心を養います」などがよいのではないか。

「松戸の街の魅力を高めます」は、街ではなく人の魅力を高めるので、「松戸の魅力を高

めます」でよいのではないか。

「子どもの時から松戸の文化遺産を大切に守り学ぶことから、ふるさと意識を醸成することを目指します」などとして、3から移行してはどうか。

「多様性と可能性を最大限発揮できる環境」はすごく大きくてイメージできないなどの御意見がございました。

そこで、松戸の魅力をサブタイトルに移動し、多様性と可能性を最大限に発揮は、具体的にイメージできるように表現を変更しまして、「松戸で文化やスポーツの活動をする人たちが活躍できるように、多様性が尊重され可能性を発揮できる環境を整えますー文化とスポーツで松戸の魅力を高めますー」といたしました。

続く文章については、「文化を創造できる人を生むまち」から、「文化を創造できる人が生まれるような環境を整備します」に変更いたしました。その文章の後に、ふるさと意識を3から移動して、「また、松戸の歴史文化を大切に守り学ぶことから、ふるさと意識を醸成します」といたしました。

また、最後の行ですが、「松戸に誇りと愛着も持つ人がさらに増えるようにします」から、「松戸に誇りと愛着を持つ心を育てます」に変更いたしました。

以上が教育大綱案の修正点の変更となります。

事務局からは以上でございます。

なお、前回どおり、この後、御協議いただくわけですが、発言に当たりましては、名前をおっしゃってから発言していただければと思っております。

それでは、御協議のほどよろしくお願いいたします。

○本郷谷市長 事務局の説明は以上のとおりです。

基本的には議論を進めさせていただいて、できれば今日皆さんの意見を聞いて最終案にしておきたいなど、こんなふうに思います。

それでは、もし意見があればということで、順番でもいいし、手を挙げていただいても結構です。

では、松田委員のほうからお願いいたします。

○松田委員 松田でございます。

どうもありがとうございました。いろいろと変えて、慎重に審議していただいたことに感謝申し上げたいと思います。

私、これを読ませていただいて、三つほど感じましたので、話をさせていただきたいと思います。

まず、第1点目ですけれども、「はじめに」というのがありまして、これは本郷谷市長の個人名が載っている文章ですので、あまり申し上げるといのは大変失礼かと思っておりますけれども、一つだけ市長にお願いしたいことがございます。それは、これまで資料1をご覧くださいとわかるとおり、市長の御発言の中に常に「広がり」という言葉が聞こえてまいりました。この文言、ほかの自治体の教育大綱と違う、非常にすばらしい概念ではないか

など思いましたので、それをぜひこの中に入れていただきたいと思います。

例えば、2段落目なんですけれども、「本市が目指すまちづくりに向けて教育施策がどうあるべきかを」となってまいりますと、かなり狭くなってしまいます。ですから、例えばですけれども、「本市の教育がどうあるべきかを行政組織や子ども、高齢者など年代別枠組みを超えて広く多世代が豊かに集うまちという視点で捉え直す必要が高まっている」とか、そのような形に変えていただくことが可能ならば、「広く」という市長の理念をぜひこの中に入れていただきたいと思います。

それから、第2点目ですけれども、4ページになりますが、基本理念のところですが、一番最後の締めが「松戸の未来を創ります」、これはそのとおりなんですけれども、この文章全体の中に「現在」という言葉が出てまいります。ですので、タイトルどおり、「松戸の現在(いま)・未来をつくります」とならないかどうか、御検討いただきたいと思います。

それから、第3点目、5ページになりますが、基本理念を支える4つの柱の中に「子ども」というのが出てまいります。文言については十分御検討いただいたと思いますが、教育委員会が何をもとに施策を考えるかということになりますと、文部科学省を非常に意識するわけです。文部科学省では、2013年に「子ども」は漢字を使うということで統一されています。ですが、ここであえて「子ども」を使うということは、ほかの市民感情である人権意識、こういったものを大事にしていこうという松戸市の姿勢の表れなのかもしれません。しかし、そうすると、第3番目の「障害」という字も、今はそういう感情からすれば、「害」を平仮名にすべきだろうというようなことで、どの視点で子どもをこのような立場で表記するのかということが見えてまいります。この辺は、教育委員会の立場としては、「子ども」というのを漢字で表記することが望ましいのではないかと考える次第です。

以上3点でございます。

○本郷谷市長 「広がり」については、今までの議論の内容をどう表現するかですし、2番目もまさに議論している表現の問題だと思いますし、三つ目は、ちょっと整理は要るかなとは思いますが、「子ども」の「ども」を漢字にするかどうか、「障害」の「害」を平仮名にするかどうかということで、文科省の政策に私はそのまま維持するというだけじゃなくて、全体から見ていくと平仮名のほうがいいのかと個人的には思います。障害の字を漢字で使ったほうがいいのか、平仮名で使ったほうがいいのか、これはもう一回、見ていただけますかね。

○白井政策推進課長 確認します。

○本郷谷市長 どうもありがとうございました。

○市場委員 市場です。よろしく申し上げます。

大綱をまとめるに当たって、我々教育委員のほうも、必ずしも意見が統一をされているわけではなくて、それこそ、今お話を聞いても、全く違う意見を述べている委員が複数いらっしゃるということもわかりましたし、それをまとめ上げていただいた市長と事務局の

非常な努力に感謝いたします。ありがとうございます。

前回の会議でもそもそも教育大綱に何を書くのかということが話題になりまして、教育に対する基本理念とかそういうものを書くのか、それとも市長と教育委員会が討議をして調節をするようなことを書くのかという話があったと思います。それについて、市長と教育委員会が討論しなければいけない内容を書くというのが大綱の基本的なものなんだと思っておりますので、そのことを明記しましょうという話がありました。それは多分市長さんの、「はじめに」のところの最後から3行目、「この大綱は、教育行政の環境整備の目指す方向や範囲を示しています」というところに込めているという理解でいいのかなと思いましたが、そこの確認が一つ。

それから、基本理念を支える4つの柱についてですけれども、全体的に内容を少しボリュームアップしていただいたかなという印象があって、その割に文字数があまり増えていないかなと思って、それは文章をつくっていただいてありがたかったと思っております。

そのような感想めいたことですけれども、以上です。ありがとうございます。

○本郷谷市長 1番目のところは事務局より説明をお願いします。

○白井政策推進課長 前回の御意見の中で、この大綱の位置づけを明記したほうがいいのではないかなという御意見を踏まえまして、今、市場委員さんからおっしゃっていただいたような部分で、「はじめに」の下から3行目の部分にこのような表記をさせていただいております。市場委員さんのおっしゃるとおりでございます。

○本郷谷市長 ありがとうございます。

○伊藤（誠）委員 伊藤でございます。

この教育大綱全般は、もう既に4回いろんな内容の議論を繰り返されておりますので、内容についてこういう点を盛り込んだほうがいいんじゃないかとか、そういうような御議論は、過ぎたのかなという感じがしております。皆さんが表現に苦勞されて盛り込まれてきているという理解で、だんだんよくなったというふうに私も思っておりますので、これまでの御努力に感謝申し上げます。

ただ、もう一度改めて読み直してみると、非常に気になる点がどうしても出てきてしまっていて、というのは、10月末に示されたものに比べても、前回のとは比較はできないんですけども、特に今回の基本理念を支える4つの柱の中に「環境」という言葉が合計すると8回も出てくるんですね。10月末に出されたのは3回だけだったんですね。「環境をつくります」という表現が非常に多いと思うんですけども、環境をつくるということは、先ほど課長の説明にもありましたが、こちらがそういう環境をつくるので、あとは皆さんが努力してくださいよというような受け止め方をされる可能性があると思うんですね。したがって、私のこれまでの経験からいうと、こういう環境をつくりますというのは、官僚的な一つの逃げというか、そういった姿勢で政治的なアピールではないんですね。もちろん、環境をつくりますと言わざるを得ないところもあるので、全てが悪いとは言わないんですけども。

例えば、一番最初の教育環境をつくり、これはそういう教育環境をつくるということでもいいと思うんですけども、そのほかにもいろんな、このような環境をつくり、こういう環境を目指しますというのは、いまいち姿勢として消極的なのではないかと。だから、政治的なアピールを出すのであれば、環境をつくるんじゃなくて、そういうものをつくり、そういうふうにしますとかいうふうにはっきりと言い切ったほうが、政治的なメッセージという意味では強いものになるのではないのかなという感じがしますので、今回の8回出てくる「環境」という言葉をせいぜい3つか4つぐらいにさせていただくとありがたいのかなという感じがいたしました。

それから、その観点から言うと、1の「教育環境をつくり、松戸に育つ子どもたちが、それぞれの能力や個性を伸ばせるように、教育環境をつくり、これは、何かちょっと日本語としておかしい気がします。ですから、それぞれの能力や個性を伸ばせるような教育環境というか、教育環境を修飾する言葉が本来あるべきのかなという感じがいたします。

だから、文章の中に出てくる「子どもたちが安全・安心な学習環境」というような表現につながるという意味では、ここは「伸ばせるように」ではなくて、「伸ばせるような教育環境」というふうにしたほうがいいのかと思います。

それから、2「子どもたちが地域社会の中で育つように」云々という緑色で表示されているものなんですけれども、子どもたちが地域社会の中で育つとか、市民みんなで子どもの成長を支える地域、それから、松戸で子どもを教育したいと選ばれるという三つのキーワードがあっちに行ったりこっちに行ったりしているわけですね、前回、前々回と比べても。ですから、いろいろ工夫されているというのは非常によくわかるんですけども、サブタイトルで「松戸で子どもを教育したいと選ばれるようにします」と、これはこれで非常にいいと思うんですけども、それ以外の二つのキーワードをあえて結びつけちゃったがために、「子どもたちが地域社会の中で育つように、市民みんなで子どもの成長を支える地域の環境をつくり、これは、どうも私の頭の中にどうしても入ってこない、何かここをもう少しわかりやすく、すっと入ってくるような言葉にならないのかなというのがちょっと気になったところです。

それから、3の本文の中で出てくる「環境整備を行います」とか「環境を整えます」というのも、市内大学等との連携や社会教育施設の充実を図るなどの施策を推進しますとか、むしろそういうふうにストレートにぱっと言ったほうが政治的なメッセージとして出てくるのではないかなという感じがしますので、「環境」という言葉をちょっと工夫していただければなという感じがいたしました。

以上です。

○本郷谷市長 これは後で検討していただけますか。ここですぐ「環境」を減らすかどうかという議論をしても難しいと思いますので。

それから、「伸ばせるような」、これは表現の問題ですね。それから、地域社会のところ

も表現をもう一回検討していただけますかね。

○白井政策推進課長 わかりました。

○武田委員 武田でございます。

3回にわたり徐々につくられてきて、第3回の際に大分、重箱の隅を突つくようなことをいろいろ私、言ってしまったと思うんですが、いろんなところを取り上げていただいて本当に感謝しています。ただ、私の言ったことが必ずしも当たっているかどうかという部分については、精査していただいていると思いますので、盛り込んでいただけた部分について自分なりになるほどと思って読ませていただきました。

おおむね私も大分いい形に進んでいるのではないかというふうに思っております。前3委員さんがおっしゃったようなこともなるほどと思って今、承っておりますが、1点だけ気になりましたのは、3番のところの、「そのために、市内大学等との連携や」というところがございますけれども、これというのは、できそうなこととして盛り込んでいるのか、果たしてどうなのかということで、全く白紙の状態であるならば、あえてこういう目標項に入れなくても、いずれ具体的な案が出てきたときに実策として出していけばいいのではないかというふうに若干思ったりします。それ以外のところでこういう具体的な相手を書いている部分というのは特にないので、ちょっとこここのところだけが、果たしてこの場に基本理念として盛り込む必要があるのかどうかというところが気になりました。その点は、現実と鑑みて入れるべきかどうかというところは、私、現状、そここのところは知らないで、ちょっと気にかかったところでございます。

以上です。

○本郷谷市長 市内大学との連携は、いろんな意味で深まってきたというか、千葉大と聖徳大と相互協定を結んだり、あるいはいろいろな大学等では僕も行って授業をしたりとか、それから、先生たちが積極的ということで、実態的には相当深まってきていると。あと、表現の仕方については、具体的な言葉ということで、これは預かって検討させていただきます。よろしいでしょうか。

○武田委員 ありがとうございます。

○本郷谷市長 実態的には大学との関係は本当によくできてきているかなとは思いますが、けれども。

どうぞ、山田委員。

○山田委員 山田でございます。事務局の御努力に大変感謝いたします。

先ほどの大綱の位置づけの点について、私は伊藤委員とは少し異なる意見を持っていて、どちらかというと、環境を整備するのでしょうか、そうだったら環境整備すると書いてくださいと言ってきたのが私なので、それはこの大綱は何を書くべきかというお話、市場委員からもありましたけれども、やっぱりそこに帰結してくるんだろうと思います。

きのう、文科省の行う市町村教育委員研究協議会というのに参加してきました。そこで個別に文科省の若手職員の方にも直接、この大綱というのは何を書くことを期待している

のかということもお聞きしました。つまり、平成26年7月17日の文科省初等中等教育局長の通達で書かれている大綱の定義というものが「教育、学術文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものであり、詳細な施策について策定することを求めているものではない」という定義をしながら、大綱の記載事項というところで、大綱の主たる記載事項は、各地方公共団体の判断に委ねられているものであるが、主として学校の耐震化、学校の統廃合、少人数教育の推進、総合的な放課後対策、幼稚園、保育所、認定こども園を通じた幼児教育・保育の充実等、予算や条例等の地方公共団体の長の有する権限にかかわる事項についての目標や根本となる方針が考えられると。この定義とこの内容というのがどう考えてもすり合っていないと思うんだけどどうかということをおもひのついでに質問したんですけども、それに関しては、要するに各自治体ごとでいろんなものが出ていますから、いろんなどころの参考にやっってくださいという答えで、そこについてが私の中ではまだ解決しておりません。

「はじめに」の中の下から3行目に、教育行政の環境整備を目標としてつくったんだよということが明記されました。これは私が強く求めていたことで、市長は最初からおっしゃったように、ここに魂を込めてくださいと、あとは入れてくださいと、専門的な議論はどんどんやっってくださいと、ただ、それは幅広くやっってくださいよと、今までの枠にとらわれないでやっつけろというメッセージを私たちはいただいていますから、まさに入れていく中身というものは、各年度、年度の施策方針であったり、あるいは個別の事業の中で反映をしていくものだろうと考えておりますので、どうも言葉として突き放したような、環境を整備しますというのが目障りであるという御意見もわかりますが、私は恐らくそっちに軸足を置いてつくられたものと理解されているので、理解し得る範囲だろうと思えます。

言葉が気になるという意味では、伊藤委員もおっしゃったように、ほかにも幾つかあるので、それは全体的な文章の練度というか、今までも練り方を高めてきていただいていると思えますし、もしかして、もっと時間をかけたらもっとよくなるんじゃないかなという気はしておりますけれども、全体としてはある一定の落としどころに来たのかなというふうに思っています。

もう一点、これは意見というよりも、ぜひ指摘をさせていただきたいんですけども、教育基本法の第1条に教育の目的というのがあって、教育の目的で言っていることに実はいろいろやっている間に近づいてきました。特に基本理念のところについては近づいてきました。つまり何を言いたいかといいますと、教育の目的は人格の完成を目指しというところは、皆さんもよく御存知のところなんですけども、その先に続くのが、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質を備えた国民をつくると、そういう国民の育成を期して行われるものだ。心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならないという、実は基本理念の後半はほとんどそこに近づいていったというふうに考えております。

これはもとより教育の目的であったとすれば、学校教育も社会教育も含めて、それを逆

にこの大綱から引き算すると、じゃ、何が残るのかといったときに、表題で挙げていただいた、みんなで育てる、みんなが育つという、共同、共育、「共」という字を使うんだと思いますけども、そういった言葉、それから、多世代、世代を広く、そしてみんなでやるんだと、それとともに育つんだと、一方的な教育ではないというようなことが松戸のメッセージの柱なんだろうと思います。と考えたときには、ある一定の方向に向かって収れんされてきたものとして、かつ松戸の特色が読み取れるものになったのだらうと思います。

そう考えると、先ほど伊藤委員もおっしゃっていましたが、4つの柱のほうの分類分けとか言葉とか、本当はもっとシンプルになっていいんじゃないかというのが最終的な私の感想であります。ただ、これは今まで私たちの議論の結果で行きついたところでございますので、非常に気になる部分というのは、私はほぼ解決されてきたというふうに思っております。

長くなりましたが、以上です。

○本郷谷市長 最初のほうの環境整備について、伊藤（誠）委員は逆に、環境整備だけして、あとは無責任じゃないかと、こういう意向で言われたと思うんですけども、今の意見を聞いて何かありますか。

○伊藤（誠）委員 私としても先ほど申し上げたように全て環境という言葉が悪いと申し上げているのではなくて、ここは教育環境という言葉でおさめないとだめだということは私も同感で、当然幾つか残すべきだと思うんですけども、ただ、本文の中にも、環境整備を行いますと何度も、繰り返し言われていて、この1枚の中に8回も出てくるわけですね。非常に目につくというか、気になりますので、環境整備というふうに言わなくても済むところは、さっき申し上げたように、施策を推進しますとか、そういうふうに言い切れるところは言い切っているのかなということなので、残すところは残していただいて、そういう感じで……。

○伊藤（純）委員 教育長です。

何度も何度もすり合わせといたしますか、打ち合わせをしながら、本当に事務局にはありがとうございます。

昨年の4月からシステムが変わりまして、教育委員としてではないという立場でこの会議をスタートして、大綱のあり方、それぞれ悩みながら、きょうで4回目の議論ということで、とにかくこれを続けてきたことはことし1年間、すごく進歩なのかなというふうに思います。そういう意味で、とりあえずここまでまとまったことについては、本当に感謝をしたいと思います。

その中で幾つか、最後なので、これまであまり細かいことは言っていなかったんですけども、まず、初めの市長さんのお言葉の、全体としては私も賛成意見ですけども、文脈として、3段落目の安全性確保の部分とその次の段落の後に入れかえたらどういうニュアンスになるかなというのを読みながら思いましたので、ちょっと一回考えてみていただければ。このままでも結構ですけども。

それから、基本理念の部分につきましては、真ん中の「そのために」という段落の後段、「また、市民・地域社会・学校・行政が」という一文は、すうっと読んでいくと、すっと入っていかない。この何行かの部分の中ではわかりにくい。章がはっきりしないというか、そういう印象を受けましたので、そういうニュアンスでもう一度読んでみていただければというふうに思います。

それから、今いろいろ議論になっていました「環境」という言葉につきましては、この前の事前の打ち合わせのときに、私も最初に全部「環境」と入っているんですかという質問をたしかした記憶があります。どうしても市長さんは大綱というのを主導してつくと、市民の皆さんがこれを受けたときに、メリットとデメリットがそれぞれあるなという思いがします。例えば、伊藤（誠）委員さんもおっしゃっていたように、1番目の文言を「伸ばせるような教育を目指します」とか、「伸ばせるような教育をつくります」といったほうが、教育に関心の深い方々はそうやって教育をやってくれるんだなというふうですと入ると思うんですね。でも、いろんな環境づくりとしては、環境というものにテーマを絞ったほうがというのがありますし、それはそれぞれどちらをとるかという判断になるのかなと思いました。

それから、二つ目については、これも先ほどキーワードになっていたんですが、地域社会の後でもう一回出てくる「地域」、「地域の環境をつくります」という「地域の」というのは、本当に要るのかなと。「成長を支える環境をつくります」のほうがくどくないような気がしています。

というふうに、細かいところはまだこれからも出てくるのかもしれませんが、全体的に、初めに申しましたように、とにかくここでまとまって、一回発信したいというふうに私は思っています。4回続けて議論をして、松戸市としての教育のあり方というのをこうやって何度も何度も時間を重ねて市長さんの意見も伺いながら、事務局が中心になって考えていただく。いろんな会議で私は申し上げているんですけども、教育そのものがなかなかわかっていくようでわかりにくい。子育ても教育ですし、学校も教育ですし、社会教育も教育ですし、いろんな教育というものがあって、それをそれぞれの立場の人たちがやっているんで、共通して考えると、なかなか共通内容というのが差があり過ぎてわかりにくい部分が出てくる。それから、それを取り扱う教育行政というのが、みんなが共通理解しているかとなると、なかなか難しいところがある。それを俎上に乗せて議論するという、それはこれからも繰り返し繰り返しやっていく必要があるのかなと思います。そのスタートとして松戸市の教育大綱がこうやってでき上がって、これを繰り返し繰り返しまたもんでいくことに今後なるのかなと思います。そのスタートができ上がるということについて、すごくうれしく思いますので、ぜひきょうの議論をまた参考にしてまとめていただきたいなというふうに思います。

○本郷谷市長 ありがとうございます。

今、意見をお伺いして、「環境」というところはまだいろいろな意見がありますけれども、

基本的な方向として大体まとまってきたと思っています。いずれにしても、ここで議論は切って、最終版を今の意見を踏まえてつくることを任せていただけますか。

いずれにしても、この大綱は、最長5年間ということですが、必要に応じて変更ができるということですから、状況の変化があれば、また議論してもいいのかなと思っています。

では、そういうことで、今の意見を踏まえて、事務局のほうに最終版をつくるということでお任せします。どうもありがとうございました。

最後に僕のほうの感想ですけれども、教育委員のメンバーの皆様方とこうやって議論するのは今回初めてで、今までは全くこういう機会がなくて、教育長と行政上の関係で議論はしますけれども、教育委員会のこういう会議の中で一緒になって議論するという、あるいは委員会以外も含めていろんな議論ができたということは非常によかったなど、最終的な文章そのものもありますけれども、お互いに議論できたことが非常によかったかなと、こんなふうに思います。

私自身がお互いに議論したいことというのは、教育委員会の中だけの話じゃなくて、本当に広がりのある話として、教育委員会を超えても結構で、我々として必要なものは取り入れてあまり限定した議論ではなく議論していきたい。専門的なところは皆様方に基本的にはお任せして、その間のところを一緒になって議論していくことになるのかなと思っています。これからもそういう意味で、これで終わりというわけではないので、もっと具体的に方針を踏まえながら議論できればと思っています。

今、市政の状況は、国も松戸も似たような状況に置かれているわけですがけれども、人口減少社会ということが一番大きな課題で、少子高齢化、そして働く人が少なくなっています。働く人が少なくて、高齢者が増えて、子どもたちも減っていく構図を考えたら、大変な世の中になっていくわけですが、それに対してどう先手を打って社会をつくり上げていくかというのが大きな課題で、今、市も国もみんな一生懸命前に進んでいるというのが今の一番大きな課題かなと思います。

そういう中で、去年、共働き、子育てしやすいまちランキングというのが日経新聞関係の雑誌で発表されましたけれども、県内で松戸市が一番ということで、全国でも東京を除いて9番目ということで、関東の中で見ると2番目ということで、非常に高い評価を受けました。それから、高齢者の政策についても、日経新聞関係の研究所の発表でしたが、県内で2番目の評価ということで、少子高齢化社会に向けたいろんな政策、我々は今、一生懸命、職員、議会も含めて動いているわけです。一定程度の成果が出ながら走っているところです。でも、これはここで終わるわけじゃなくて、まだ走っている途中だということですから、我々もこれからもっと力を入れていきたいと思っています。

今、ちょうど予算の作成時期で、来年の政策について議論しているわけですが、市の中に一つ大きな課題として、子どもの貧困問題、子どもたちにもっと夢のあるようなまちをどうやってつくっていくかということをもっともっと正面から議論する必要があるな

ということで、子どもの未来応援検討チームというものを、これは教育委員会の職員も入ってくるとは思いますけども、全庁横断的なチームをつくって検討に入ろうということもしています。

それから、子どもたちに夢支援ということで、松戸市内で大変たくさん子どもたちが本当に素晴らしい活動をしていますので、そういうものをもっと市民の皆さんに知っていただくとか、あるいは子どもたちの意見や夢をもっとたくさん聞いて、それを実行できるようなことを前向きに、今までも聞く機会はいろいろあったわけですけども、もっと気持ちを受け止めながらやっていこうという、子どもの夢支援みたいな体制を組んでいこうとしています。あるいは子育て世代の包括支援センターということで、子どもたちはいろんな悩みがあったり、いろいろな課題があったりするので、そういうものをまず全体で受け止めようというような体制を組んでいこうとか、いろんなことを市全体としても、教育委員会とも一緒に議論しながら進めておりますので、そういう中でまた新しい政策をぜひ一緒にやっていければと思います。本当にありがとうございました。

本年度はこれで最後になりますけども、また来年も、今度は具体的な政策議論みたいなほうがいいのかなども、基本的な方向は大分共通認識もでき上がってきているし、方針も一応でき上がったということなので、来年はテーマを持って意見交換をしていくということがいいのかというふうに思いますので、次年度以降、また事務局でどういうふうに進めるか検討していただきますけども、そういう形で進めていければと思います。

ということで、締めたいと思っておりますけども、何か最後に意見があれば。

○山田委員 せっかくの機会ですので、ぜひ、今、お示しいただいた、これから打つ子どもたちに向けた施策、素晴らしいことです。セーフティーネットというか、全体を支援しなければ行政としての責任を果たせないという強い思いを感じさせる。そういう非常に地味だけれども大事なことと、松戸の現在持っている特質としての、例えば中学校の部活動も含めまして、全国に発信できるレベルにあるというタイミングをぜひ逃さないでアピールする手がないかと。これは先ほどのまちづくりにもつながる話ですけども、ぜひそういったことを次回以降テーマに挙げていただきたいと個人的に思っております。まだ施策にできるかどうかは別にしても、夢を語れる場として、市長にもこの場を創造的な場として、言ってしまったからやらなくちゃならないとか、言質をとるとか、そういうことを我々の中ではなしにして、ぜひそういったことを試行錯誤できる議論の場としてこちらからも提案をさせていただき、市長の考えもお聞きしたいというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたしますと思います。

○本郷谷市長 ありがとうございます。同じ問題意識を市としてもみんなで共有していて、大変いい活動をしている子どもたちが、世界大会に行くようなものも含めて、全日本でトップレベルの競技も含めて、大変たくさん活動をしている子どもたちがいますが、市民はあまりお互いに知らないという状況もあります。それぞれが一生懸命頑張っているからいいという考え方もありますけども、そうじゃなくて、それぞれが一生懸命活躍したり

とか、あるいはいろんな環境をつくることは当然必要ですけども、市民の人ともっと共有して、お互いに応援してくれるとか、理解しているという体制が不足しているなどというふうに思いますので、それはぜひ我々の既に検討しているテーマでもありますけど、議論していい方法があればまた提案していただいたりして前に進めればと、思います。

では、これできょう予定していました議題につきまして終わりました。

事務局のほうから何かありますか。

○白井政策推進課長 皆さん、大変お疲れさまでございます。

最後に、資料の訂正をお願いいたします。

資料1の表紙の部分なんですけど、右上に資料1と書いてあって、平成27年と書いてありますが、平成28年の誤りでございます。大変申しわけございません。

教育大綱につきましては、先ほども市長からも説明がありましたとおり、今回の協議経過を踏まえまして最終調整を図り、成案化への事務手続を進めてまいります。今回の意見の反映等を含めまして、また委員の皆様には何らかの形で御報告させていただきたいと思っております。

次回の総合教育会議の開催でございますが、何か緊急な事態が起きない限りは、次年度を予定しております。なるべく早い時期に開催し、それ以降、総合教育会議で具体的にどのようなテーマで御協議いただくのかを御提案させていただいた上で、進め方につきましても、御協議いただきたいと考えております。

具体的な開催の日程は、また教育委員会事務局と協議をさせていただいて、お知らせいたしたいと考えております。

連絡事項は以上でございます。

○本郷谷市長 それでは、これをもちまして第4回の松戸市総合教育会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。